

### 口永良部島における火山ガス組成観測結果（2020 年 6～11 月）

口永良部島島内およびフェリー太陽上での二酸化硫黄放出率機動観測の際に、Multi-GAS を用いた火山ガス組成の機動観測を実施したので、結果を報告する（図 1）。観測は、山麓および海上に流下してきた噴煙に対して測定を行ったものである。

図 1A, B の通り、 $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$  比は 6 月まで 5～11 程度で過去の噴火時のデータと同程度であったが、8 月にかけて 1～4 程度に低下した。その後は、同程度の値を維持している。観測中の  $\text{SO}_2$  濃度最大値（図 1C）も、 $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$  比と同期して低下し、8 月以降低い値を維持している。

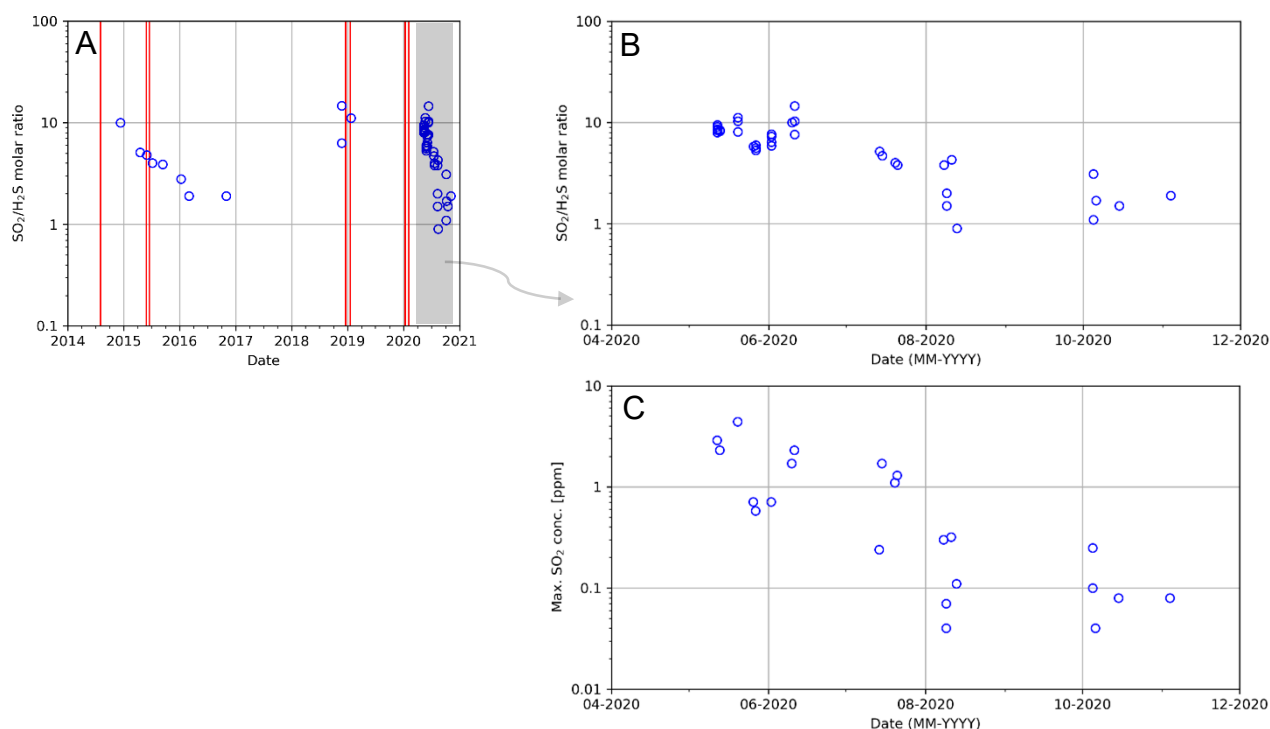


図 1 口永良部島火山ガス組成観測結果：A, B,  $\text{SO}_2/\text{H}_2\text{S}$  比；C,  $\text{SO}_2$  濃度最大値（期間は、A が 2014 年～現在、B, C が 2020 年以降の拡大）。2017 年以前のデータは Kazahaya *et al.* (2019, *BI*) による。2019 年以前のデータは、セスナ機や火口近傍での観測による。赤線は噴火に対応する。